第Ⅳ章　教育活動プラン

自分のよさがわからず、何をするにしても自信が持てない。周りの友達とすぐにぶつかってしまい、みんなで力を合わせたり何かをやり遂げたりした達成感や充実感を味わったこともあまりない。夢や目標に向かってがんばったり、みんなのために自分から何かしようとしたりはしない。そんな児童の姿が増えつつあることが、質問紙調査や聞き取り調査の結果から伺えます。

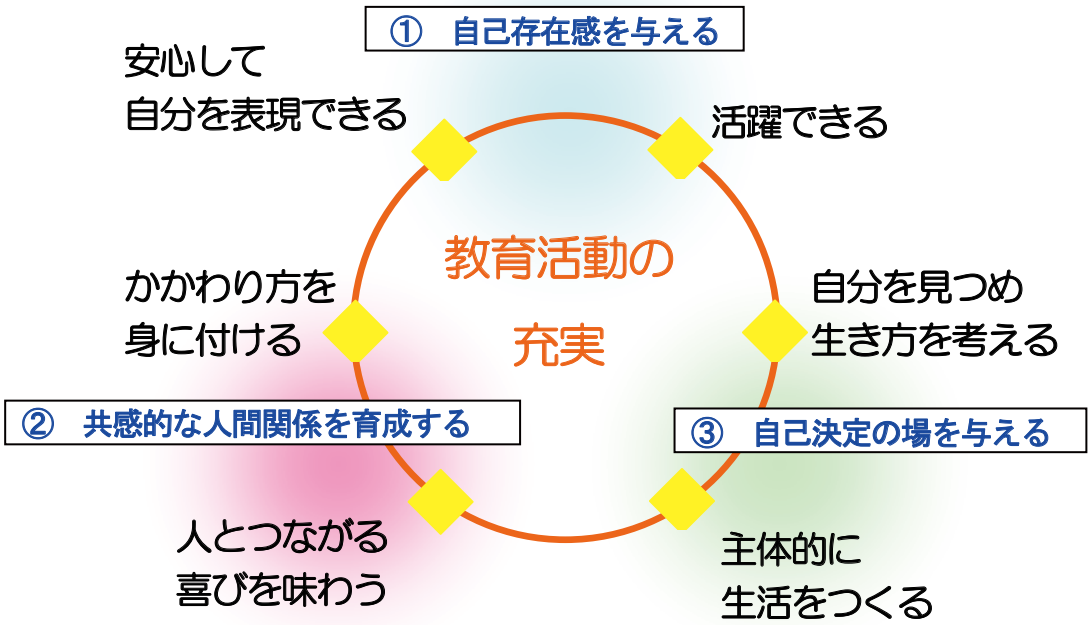
こうした状況にあって、生徒指導提要には、生徒指導の視点から教育活動に求められる機能を右の下線部のように述べています。今、小学校では、この３点に留意して児童のかかわりを見つめ、教育活動の充実を図ることが必要になっています。

> 生徒指導は、一人一人の児童生徒の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、さらに将来において社会的に自己実現ができるような資質・態度を形成していくための指導・援助であり、個々の児童生徒の自己指導能力の育成を目指すものです。そのために、日々の教育活動においては、①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助することの3点に特に留意することが求められています。
>
> （生徒指導提要より、下線は引用者）

そうした教育活動の充実を推進していくのが、**「教育活動プラン」**です。

具体的方策として、本プランでは、下図に示す６つを、教育活動に生かす視点として設けました。これらは、本プログラムの調査研究協力校２校とミドルリーダー活用研究校 13 校の実践事例を、上記の生徒指導の３つの視点に照らして分類・考察して導いたものです。

「活躍できる」、「安心して自分を表現できる」、「かかわり方を身に付ける」、「人とつながる喜びを味わう」、「主体的に生活をつくる」、「自分を見つめ、生き方を考える」といった６つの視点を踏まえた教育活動を工夫する。



一人一人の教職員は、日ごろから様々な機会や場を捉えて、これらの視点を生かした指導や支援を行っているでしょう。

しかし、どの児童の学校生活においても６つの視点を踏まえた教育活動を保障すること、つまり学校全体のプロジェクトとして位置付けることが、組織的に生徒指導を進めていく上で大切であると考えます。